

# 理事長挨拶



## 学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎

令和5年度は、「加計学園ビジョン 2026」を目指してスタートした第2期中期計画（2022～2026年度）の2年目となります。ビジョンでは「1 教育・研究の推進」、「2 学生生徒の支援」、「3 地域社会との連携」、「4 国際化の推進」、「5 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進」、「6 ガバナンス体制と内部質保証システム」の6つの柱を中心に示しましたが、本年度もこの柱を中心に事業計画を立てています。

岡山理科大学では、学生から、地域から、社会から選ばれる大学を目指して、第2期アクションプランをさらに推し進めます。学生に主体的に学ぶ意欲を喚起させるため、学びを可視化できる環境を構築し、成長の実感を得ることができるよう効果的な学生指導を実現させます。また、獣医学部と工学部の学部の枠を超えた獣工連携プロジェクトや、好適環境水をはじめとする個性的で魅力的な研究シーズを磨き、SDGsなどの社会的課題の解決に繋げていきます。

倉敷芸術科学大学では、教育の質を向上させ大学の魅力をさらに高めて行きます。令和6年度から導入する「アート&サイエンス教育（A&S教育）」の最終準備段階である今年度は、A&S教育の理念・目的を反映したDP、CPを完成させ具体的な授業計画を決定します。学生からの要望や意見を汲み上げる仕組みの構築と、計画の実施を支える内部質保証体制の強化のため、大学運営組織体制を改革します。

千葉科学大学では、教育の質保証のため教学マネジメント体制を適切に機能させ、アセスメント・ポリシーに基づき、大学の三つの方針の点検を行います。安定的な経営基盤を構築するため、学生確保を最大の課題と位置づけ、それらの活動に携わる教職員の能力開発・人材育成を行っていきます。

専門学校及び附属の中学校・高等学校、保育教育においても中期計画1年目の評価を踏まえて2年目の計画を実行して参ります。

令和4年の出生数は79万9,728人となり、統計開始以来、初めて80万人を下回りました。想定を超えて急速に進む少子化に、私立学校による教育をいかに展開していくべきか、また、令和7年の私立学校法改正に向けて法人のガバナンス体制をいかに強化していくべきか、学校法人の責務として社会の要請に応えることができるよう、常に計画の策定・実行とその効果を点検しながらビジョンの実現に励んで参ります。